

2008年3月期 中間決算説明会



スターバックス コーヒー ジャパン株式会社
2007年11月14日

本日のプレゼンテーションの構成

1

FY07中間期 業績総括

北川 徹

ファイナンス・アドミニストレーション統括
/オフィサー

2

通期の事業見通しについて

マリア・メルセデス・エム・コラーレス

代表取締役最高経営責任者(CEO)
兼最高執行責任者(COO)

損益計算書【PL】

(単位:百万円)

	07年3月期	08年3月期	前年比増減	
	(中間期)	(中間期)		
売上高	38,068	44,661	6,592	17.3%
売上総利益	27,223 71.5%	32,204 72.1%	4,981	18.3%
販売費及び 一般管理費	24,760 65.0%	28,300 63.4%	3,539	14.3%
営業利益	2,462 6.5%	3,903 8.7%	1,441	58.5%
経常利益	2,488 6.5%	3,958 8.9%	1,469	59.0%
特別利益	-	-	-	-
特別損失	126 0.3%	158 0.4%	31	25.1%
税引前 中間純利益	2,361 6.2%	3,799 8.5%	1,437	60.9%
当期純利益	1,272 3.3%	2,094 4.7%	821	64.6%

【売上高】

- ☒ 全社売上高ベースで17.3%の増収
- ☒ COMP 103.2% (TR98.1%、AT105.2%)
- ☒ 出店41 (内ライセンス4店舗) 退店5

【売上総利益】

- ☒ 0.6ポイント改善
- ☒ 上昇要因：ドリンクの価格改定、資材の調達先変更 物流費削減等
- ☒ 低下要因：為替、原材料のコスト増等

【経常利益】

- ☒ 4期 (中間期) 連続最高益更新
- ☒ 経常利益率 2.4ポイント改善

【特別損益】

- ☒ 特別損失：減損損失 102百万円等

販売費及び一般管理費

	07年3月期 (中間期)	08年3月期 (中間期)	構成比の 増減
販売費及び 一般管理費	24,760 65.0%	28,300 63.4%	-1.6%
店舗人件費	10,006 26.3%	11,635 26.1%	-0.2%
店舗不動産賃借料	4,471 11.7%	5,028 11.3%	-0.4%
店舗減価償却費	1,038 2.7%	1,177 2.6%	-0.1%
店舗その他経費	4,000 10.5%	4,379 9.8%	-0.7%
サポートセンター 費用	3,001 7.9%	3,454 7.7%	-0.2%
ロイヤリティ	2,105 5.5%	2,461 5.5%	0%
事業税・事業所税	136 0.4%	164 0.4%	0%
売上高	38,068 100%	44,661 100%	

(単位:百万円)

【店舗人件費】

- ☒ COMPの伸展による効率化、客単価の上昇等により0.2%減。

【店舗不動産賃借料】

- ☒ COMPの伸展、新規店舗が好調。

【店舗その他経費】

- ☒ コスト管理の徹底に伴う改善
- ☒ 広告宣伝費の投入期間、店舗改装の一部を下期に計上予定。

【サポートセンター費用】

- ☒ 業務の効率化、増収に伴う比率の低下

貸借対照表【BS】(資産の部)

(単位:百万円)

	07年3月期 (中間期)	08年3月期 (中間期)	増減額
流動資産	11,365	13,013	1,647
現預金	4,144	4,320	176
売掛金	2,408	3,078	669
棚卸資産	1,504	1,428	-76
その他	3,307	4,187	879
固定資産	25,701	28,067	2,366
有形固定資産	10,051	11,274	1,223
無形固定資産	831	856	24
差入保証金	13,298	14,562	1,264
その他	1,520	1,374	-145
総資産	37,067	41,081	4,013

【売掛金・流動資産その他】

☒ 増収に伴う増加等

【固定資産】

☒ 投資内容:

- 新店 1,262百万円
- 改装等 331百万円
- 保証金 580百万円

貸借対照表【BS】(負債・資本の部)

(単位:百万円)

	07年3月期 (中間期)	08年3月期 (中間期)	増減額
流動負債	10,096	12,510	2,413
買掛金	1,460	1,844	383
短期借入金	701	1,501	800
その他	7,935	9,164	1,229
固定負債	3,557	2,239	-1,317
長期借入金	3,390	1,889	-1,501
その他	167	350	183
負債合計	13,654	14,749	1,095
資本金	8,338	8,346	7
資本剰余金	10,913	10,921	7
利益剰余金	3,884	6,932	3,048
評価・換算差額等	276	130	-145
純資産合計	23,412	26,331	2,918
負債・資本合計	37,067	41,081	4,013

【流動負債その他】

☒ 未払法人税の増加

【長期借入金】

☒ 約定弁済による返済

キャッシュフロー【CF】

(単位:百万円)

	07年3月期 (中間期)	08年3月期 (中間期)	増減額
営業活動CF	1,995	3,730	1,735
税引前純利益	2,361	3,799	1,437
減価償却費	1,166	1,383	217
法人税	▲1,167	▲1,560	-392
その他営業CF	▲365	107	472
投資活動CF	▲2,407	▲2,455	-48
有形固定資産の取得	▲1,760	▲2,333	-573
保証金の差入	▲741	▲682	58
その他投資CF	94	560	466
財務活動CF	▲857	▲624	233
長期借入金の返済	▲650	▲350	300
その他財務CF	▲207	▲274	-67

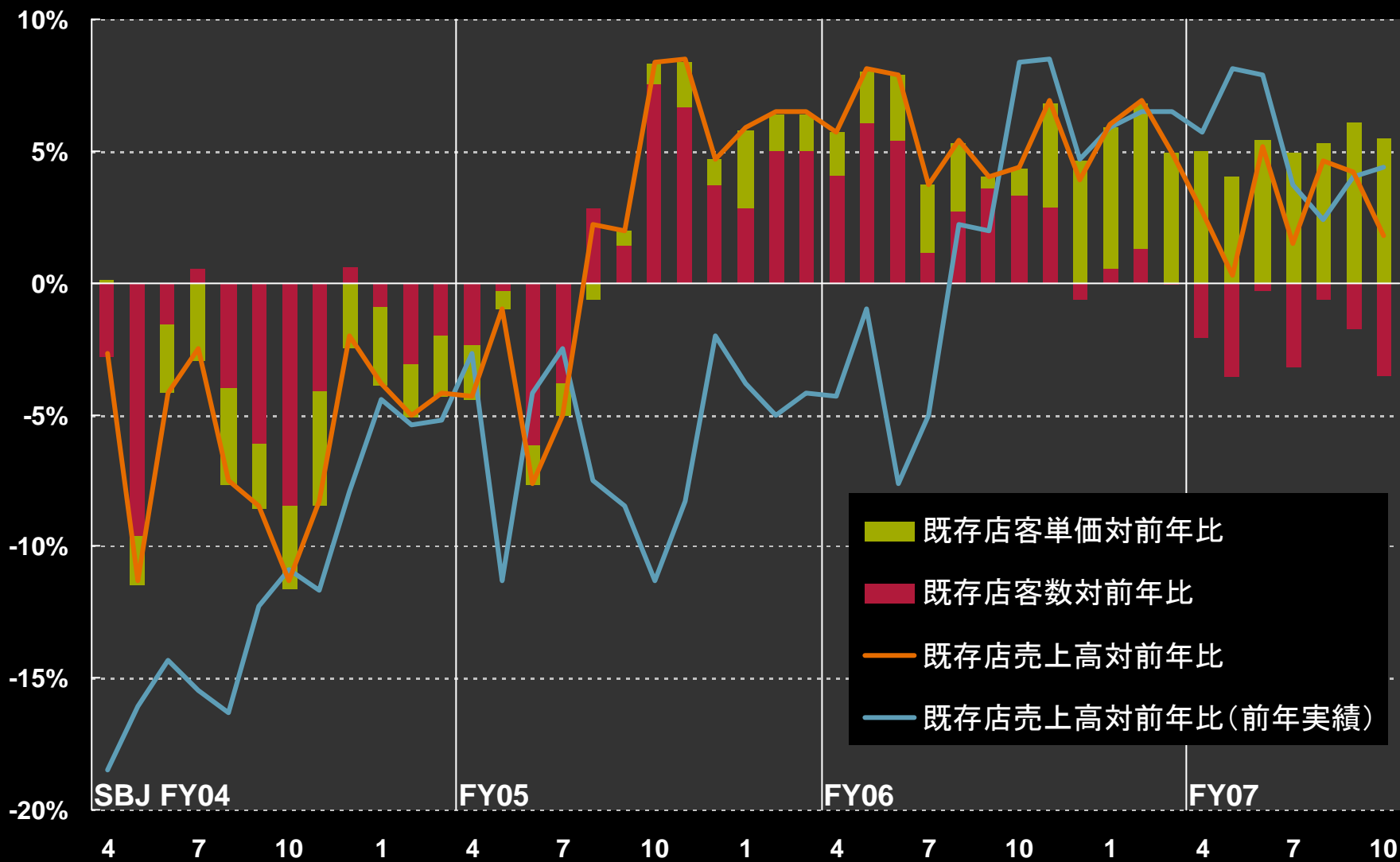
【投資活動CF】

- ☒ 有形固定資産、保証金：
出店拡大に伴う増額

【財務活動CF】

- ☒ 長期借入金返済
- ☒ 配当金支払

既存店売上高前年比は2005年8月より 26ヶ月連続プラス伸展



新しいコンセプトのフード開発



Wellness Selection(5/30 launch):

素材そのままのおいしさや、栄養バランスなどが特長の商品群。主な商品には、

豆乳あずきシフォンケーキ、
ビーンズカレーラップ など

朝食メニューの大幅刷新(9/5 launch):

「スターバックス コーヒー で始まるアクティブな一日」をコンセプトに、朝の時間帯の様々なニーズに合わせた商品を開発。主な商品には、

アメリカン トラディショナル ドッグ、
チキンシーザーサラダラップ など



夏場の清涼感溢れるドリンクの新メニュー



マンゴー パッション フラペチーノ®
ラズベリー カシス フラペチーノ®



AZUKIクリーム
フラペチーノ®



Be juicy!:

SBJのためにカゴメ株式会社が独自に開発した100%フルーツミックスジュース

スターバックスブランドの広がり、好調なMD商品



ヒア・ミュージック:

USスターバックスと「コンコード・ミュージック・グループ」が共同で設立した新レーベル。



ブランド力を高める様々な取り組み

タンザニア ティンガ ティンガ アート展



アートや音楽との融合



Coffee Expertise ～コーヒーの専門性を高める～



コーヒーセミナー

上半期のべ597回開催

ブラックエプロンデー

上半期132店舗で開催



新規出店/改装店舗

新規出店

	FY06期末 店舗数	FY07上半期 出店数	FY07 中間期末 店舗数
直営店舗	675	37	707
ライセンス店舗	11	4	15
合計	686	41	722

(FY07上半期 閉店数:5)

改装店舗

上半期実績:108店舗

(リモデル15店舗、リフレッシュ93店舗)

下半期計画

新規出店:49店舗

改装:約100店舗



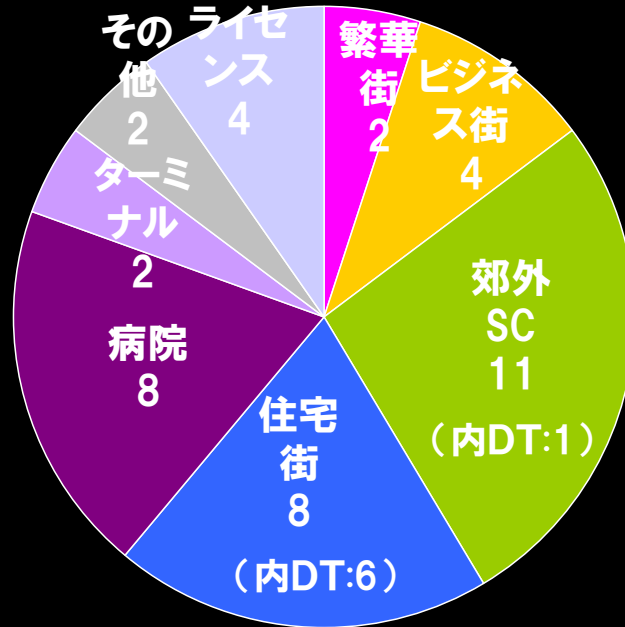
FY07中間期 店舗タイプ別出店数

計41店舗

海ほたるパーキングエリア店
(ターミナル/SA/PA)



慶應義塾大学病院店(病院)



DT:7店舗 SA/PA:1店舗

高知あその店(住宅街)



新丸ビル店(ビジネス街)



横浜鶴見店(住宅街/DT)



エームサービス株式会社とのライセンス契約締結



エームサービス株式会社：
1976年5月、三井グループ企業と米国の
サービスマネジメント企業アラマーク社の合併
企業として設立。ビジネスダイニングサービス
等の領域で大きなシェアを持つ。今回の契約
により年内1号店を出店予定。



Starbucks Discoveries (RTD)

昨年10月からの1年間で1億本販売を達成！



2005年10月～2006年9月

4,800万本

2006年10月～2007年9月

10,100万本

マーケットインから2年でのシェア (推計)

数量ベース 約15%

金額ベース 約20%

出典: SBJ調べ

今後の事業戦略及び 見通しについて

マリア・メルセデス・エム・コラーレス

スターバックス成長の歴史

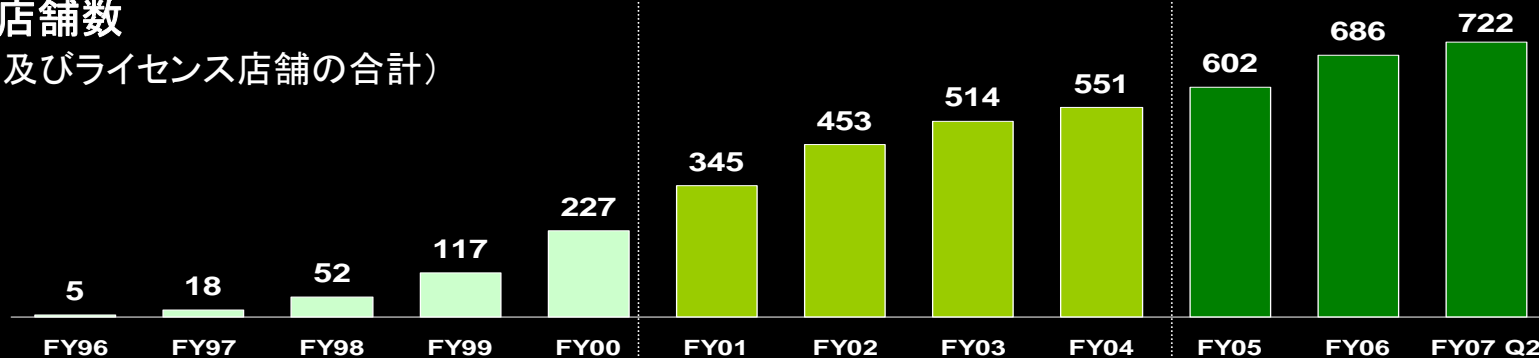
第一成長期

ポストバブル期

第2成長期

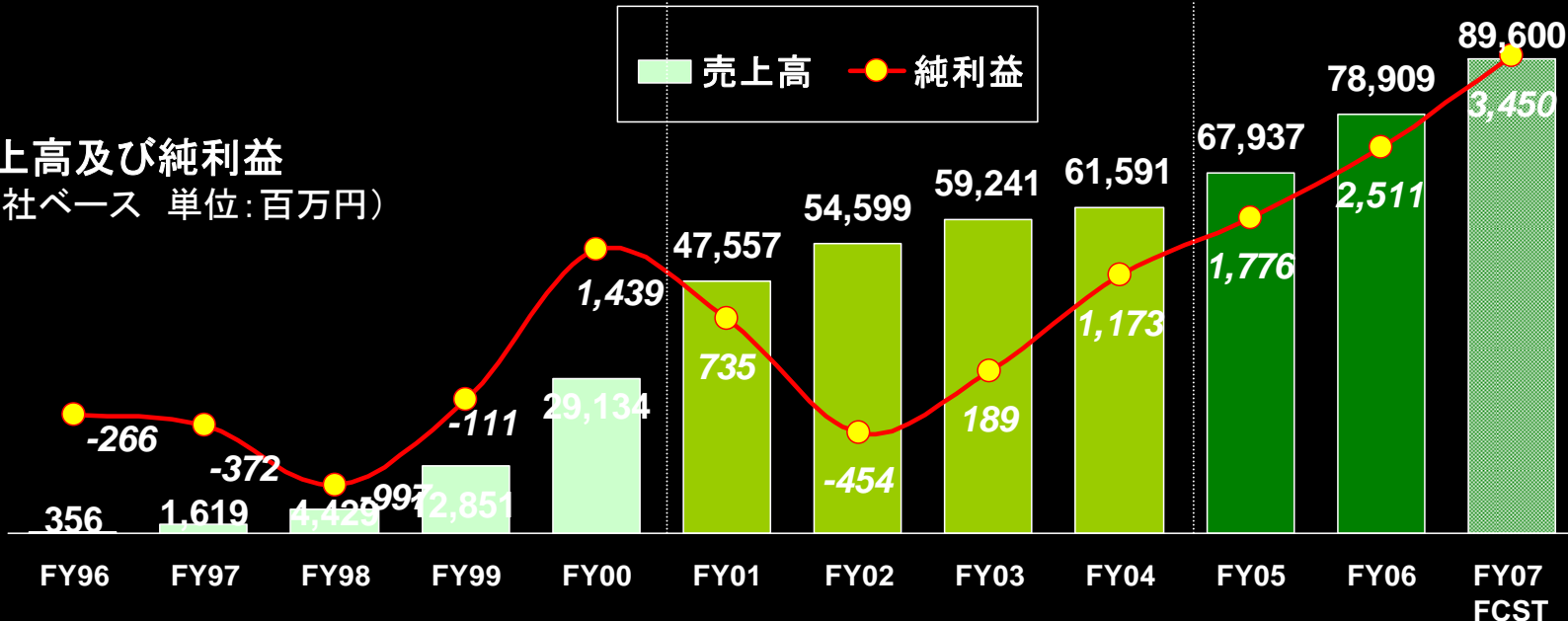
期末店舗数

(直営及びライセンス店舗の合計)



売上高及び純利益

(全社ベース 単位:百万円)



ブランドの健全性 – (社外調査)

- スターバックスは最も良く利用されるコーヒーショップ(35%)。次点のブランドは25%。
- スターバックスは最も好きなコーヒーショップでもトップランク (40%)。次点のブランドは16%。

出典: エルゴ・プレインズネット調査2007年9月.

ブランドの健全性 (2)

- スターバックスの認知率はほぼ100%.
- トップオブマインド(第一想起)も50%以上.
- 主要コーヒーショップの中で、利用率が最も高かった。
- 最も好きなコーヒーショップとして、スターバックスを挙げた人は32%と最も多く、次点のブランドを大きく引き離している。
- 各コーヒーショップのユーザー別満足度及び今後の利用意向でも、どちらも最も高かった。
- イメージ評価では、“Coffee experience” や “信頼性”の項目で高い評価を受けている。

出典: SBJ調査 2007年3月

ブランドの健全性 (3)

ブランド コミットメント

- スターバックスユーザーの49%はコミットメントユーザーで、次点のブランドを大きく上回っている。(33%)
- 首都圏のセルフコーヒーショップ利用者の62%がスターバックスを利用し、更に利用者の半数がコミットメントユーザーである。他のブランドと比べて圧倒的な強さを誇っている。

出典: SBJ調査 2007年3月

調査手法及び調査地域

- 調査地域:全国を18エリアに分割
- 調査手法:インターネット調査



ホリデープロモーションスタート！

Chocolate
Mint
Mocha



Gingerbread
Latte

Crème Brûlée Latte

ホワイト ザッハトルテ



ピンクペッパービーフ
サンドイッチ



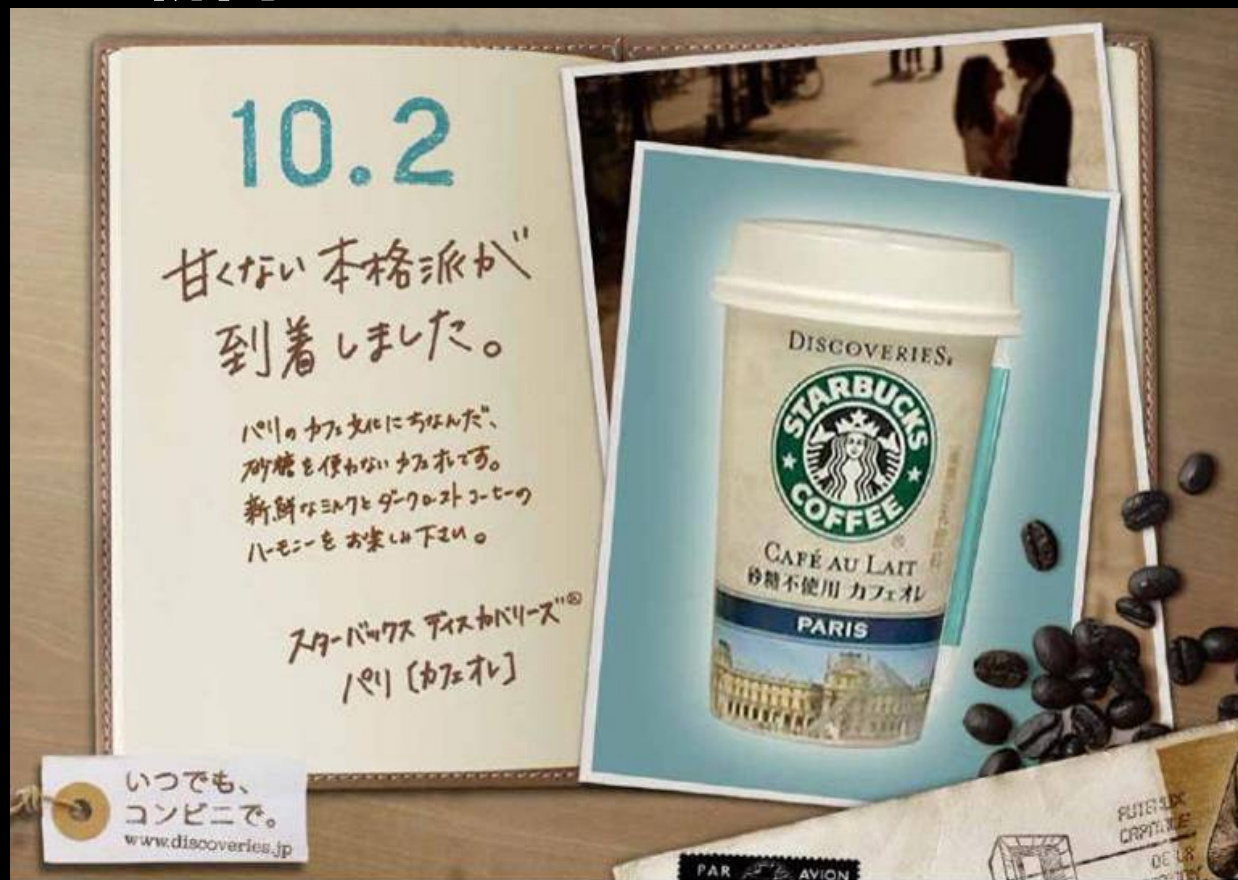
オレンジ
ジンジャーマフィン



Pass the Green

Starbucks Discoveries (RTD)

新商品 “Paris Café Au Lait”



販売エリア

10月2日

関東1都10県

10月16日

中部・近畿 2府7県

Voices from the Heart(心の声) アート展



11月21日～2008年1月9日

@東京・長崎

展示の他、ライブミュージック・ライブ
ペインティングなどのイベントも開催



下期以降の取り組みについて

1. **ビジネスの中核をなす価値観とブランド差別化にフォーカスし、強みを伸ばす。**
 - ◆ コーヒーの品質、革新的な商品開発、ホスピタリティ溢れるサービス、サー
ドプレイス
2. **出店の拡大をポートフォリオに沿った形で多角的に進め、全国のお客様にスター
ボックス体験をお届けする利便性を確立する。**
3. **既存店の緻密な分析**
 - ◆ より高い戦略性をもった改装へのアプローチ
 - ◆ 前年割れしている既存店の個別要因/解決策の策定
4. **成長のための継続的な能力開発への投資**
 - ◆ 人材開発、業務プロセス、システム
5. **実行力、生産性の向上、原価及びコストの管理徹底により、高い利益率の継続**

2008年3月期 通期業績見通し

(単位:百万円)

	2007年 3月期 実績	2008年 3月期見通し			前年比 (%)
		修正予想	期初予想	増減額	
売上高	78,909	89,600	89,600	-	13.5
営業利益	5,041	6,450	6,050	400	27.9
経常利益	5,134	6,550	6,160	390	27.6
当期純利益	2,511	3,450	3,200	250	37.4

